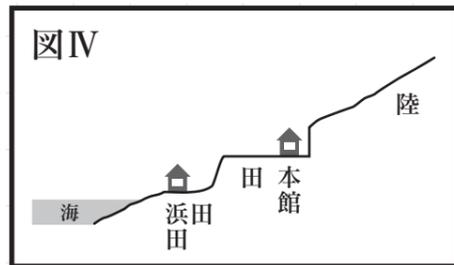
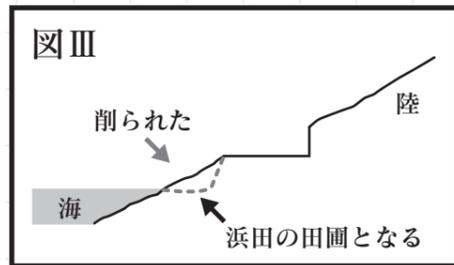
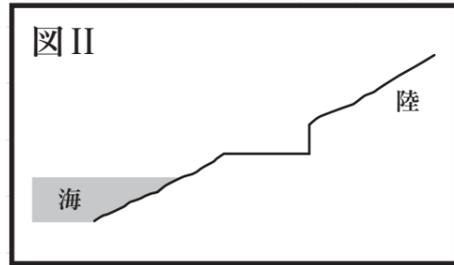
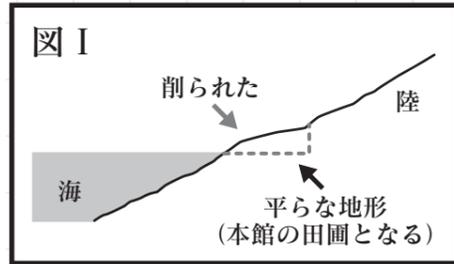


撮影・林 信太郎教授



八峰白神ジオパーク推進協議会
八峰町峰浜田中字野田沢20-1
峰栄館2階
☎0185-70-3881

八峰白神ジオパーク推進協議会
会長 工藤 英美

高い崖があるわけ ～海岸段丘①～

浜田集落の田圃と本館集落の田圃の境目は高い崖になっています。この崖はどのようにしてできたのでしょうか。もちろん人が削って作ったものではありません。自然の力が作り出した芸術品とも言えるものです。写真で見るとこの崖と本館の田圃となっている平らな面をつくるには、次の3つの事柄が起こる必要(条件)があります。

- 条件① 海面の高さが変化したりしなく、また土地の高さも変化がない事。
- 条件② 海面の高さが大きく変化することはありません。その変化がある事。いつも変わらないと思っている山々はその高さが大きく変化することがあります。その変化がある事。
- 条件③

まず、図Iを見てください。条件①のとき出来る形です。波がどんどん陸地を削っていきます。続いて条件②が起こるとします。すると海面が下がって行き図IIのようになります。図IIを見ると海から離れた高い場所に平らな面が出来ています。現在この面で本館集落では田圃を作っていることになりました。次にまた条件①が起こると、図IIIのようにまた波は陸地を削っていきます。すると新しい面が出来ます。これが浜田集落で使っている田圃の面です。こうして出来た図IIIの形をみると、本館の田圃は高いところであり、浜田の田圃は低いところであり、さらにそれらの境目に崖が出来た訳がはつきりすると思えます。図IVは現在の様子を表しています。(次号に続く)



町では自殺予防対策事業の一環として、8月18日(木)旧岩子小学校体育館を会場に、聖路加国際病院理事長・名誉院長の日野原重明先生(99歳)による「いのちの授業」を開きました。日野原先生と町内小学校4年生から6年生までの児童約180人との「いのちの授業」の様子をことぶき大学生約330人が見守るとい形で行われました。

はじめに各小学校の児童がそれぞれの校歌を歌う中、日野原先生自ら指揮を執りながら入場。授業に入ってから「野球が得意な子は?」「サッカーが得意な子は?」などと児童との会話を随所に入れ、そのやりとりが暖かく、そしてユーモラスで会場は終始明るい雰囲気でした。

いのちの話では、空気が見えない・触ることができないように、命も見る事ができない。「命」とは「使える時間」のためであり、子どもの頃は時間を「自分のため」に使うが、大きくなったらその



時間を誰かのため・困っている人のために使うことが必要であることを考えて欲しい、と話されました。

また、「思」、「愛」に入っている「心」という字を例に挙げ、漢字一文字の意味を考へることの大事さや、学校は児童が勉強以外で得意なことを把握してあげる、保護者は子どもが得意なことを世の中のために使えるようにすることが大事だとも話されました。

最後は「じゃぼん玉」の歌を日野原先生の指揮により会場みんなで合唱し、幕を閉じました。

10月で100歳を迎えるとは思えないほど元気な日野原先生。今度は110歳に八峰町を訪れてくれることを約束してくれました。

日野原重明先生 「いのちの授業」